

<目的>近年、マスコミ等ではしばしば家族解体の危機が喧伝されており、そこでは昔の家族が引き合いに出されて懐古的に語られることが多い。しかしその認識は、個人の記憶や思い込みなどによる、根拠の薄弱なものが多い。本報告では、昭和16年の生活を時間の側面から明らかにし、そこから得られた当時の生活の実態と、当時に対する現在の認識とを比較・検討することを目的とする。

<方法>昭和16年8月から昭和17年5月にかけて行われた「第1回NHK国民生活時間調査」の結果について、特に女性と子どもに焦点を当てて分析し、可能な限り「昭和60年NHK国民生活時間調査」と比較することを試みた。

<結果>当時の女性の生活は「労働時間」が極めて長く、特に21歳から30歳までの農業世帯の女性は1日24時間のうち13時間18分を労働に費やしていた。主婦の「家事労働」は昭和60年より2時間49分長かったが、そのうちの2時間30分は「裁縫」の時間で、それ以外は19分の違いしか見られなかった。また当時の子どもの生活を昭和60年と比較してみると、昭和16年の方が「勉強」の時間は11分長く、「遊び」の時間は2分長いというだけの違いでしかない。更に世帯主の職業ごとに結果を再構成して見ると、昭和16年においては「食事」の時間帯は必ずしも世帯において一致しておらず、勤め人世帯では夕食が、それ以外の世帯では朝食が別々になされていた。昭和60年調査においては、対象の抽出が世帯ではなく個人なので、結果を世帯ごとに再構成することが出来ず、この点について比較することはできない。